Bibliophiles

ビブリオファイルズ　No.10(2018 年度)

新着図書案内・お知らせ　西宮東高校図書館

今年も先生方による選書が始まりました。

教科の先生が選んだ本です。理科からは腸内細菌のバトルなどを描いた漫画**『はたらく細菌』**や、木炭で電池を作るなど興味深い実験を解説した**『でんじろう先生のわくわく科学実験』**などが入りました。国語科からは小論文対策本が数冊、社会科からは豊富な写真で食文化を解説する**『しらべよう!世界の料理』**全７巻などが入っています。家庭科については下をご覧ください。まだまだ入ってきますよ！

『知識ゼロからの異常気象入門』

斉田季実治

酷暑に地震、台風の頻発・・前代未聞の「東高祭が３日間とも全て休校」の事態に象徴されるように、今年ほど自然の異変を強く意識させられた年はありませんでした。日本は大丈夫なんでしょうか！？本書は NHK の人気の気象キャスターが書いた本で、近年の異常気象についてイラストや詳細なデータ付きで分かり易く解説してくれます。

『英単語の語源図鑑』

文：清水健二・すずきひろし

イラスト：本間昭文

英単語って覚えようとしても中々覚えられないですよね？本書は、英単語をいくつかの要素に分解して、共通項で覚えてしまおう、という試みです。例えば、mini は「小さい」という意味ですが、ここから minister「大臣」→「国民に使えるしもべ（小さい人）」や diminish「減少する」→「小さくする」などが生まれています。イラストも多く、英語が苦手な人はぜひ。

『ロング・グッドバイ』

作：チャンドラー　訳：村上春樹

翻訳家としても評価の高い村上春樹。彼は「これまでの人生で巡り会った最も重要な本」の３作の一つとして、この作品を挙げています。（ちなみに、ほかの２作は『グレート・ギャツビー』と『カラマーゾフの兄弟』。）その彼による翻訳ですので、当然に気合いが入っています。50 ページ以上にわたる「訳者あとがき」（もう半分、趣味の領域ですね）で、チャンドラーの人となりや彼の文学の独自性、また翻訳の苦労話などをたっぷりと語っています。

『海賊の日本史』　　山内譲

「海賊」と言うと、ピーターパンや漫画の「ワンピース」に登場する人物を想像するかも知れません。しかし、日本史の「海賊」とはあのような人ばかりでなく、あらかじめ船に乗り込んでおき、他の海賊が入って来られないように安全を保障してくれる人たちもいたのです。また、実際には船の貨物を横領した者が「海賊」に盗まれたという嘘の報告をした例も相当数あるようです。本書ではこうした海賊の実態に迫ります。

『ニッポンの裁判』　瀬木比呂志

仮にあなたは、無実の罪でいきなり逮捕されて 20 日間も留置場に勾留（こうりゅう）され、厳しい取り調べを受け続けたとします。果たしてあなたは、してもいない罪を認めることはありませんか？弁護士のような法律家でさえ、これに耐えられる人は多くなく、楽になるために虚偽の自白をしてしまう、とも言われています。つまり、日本の裁判制度が構造的に冤罪（えんざい）を生んでいるわけですね。本書は、元・最高裁判所の裁判官による日本の裁判批判の本です。

家庭科の先生方による選書本をご紹介します！

まずは**うめ**による漫画**『イクメンと呼ばないで　ニブンノイクジ』**。「うめ」は夫婦による漫画ユニットですが、超多忙なため子どもを保育園に預けようとします。しかし漫画家は自宅での仕事のため「認可保育園への入園はまず無理」と役所の人に言われてしまいます。そこで考えた二人の「秘策」とは・・**荻上チキ・内田良の『ブラック校則』**。校則について色んな立場の人が考えを書いた本ですが、ある弁護士によると「法律上、生徒や保護者の意思が校則に反映される仕組みを作るべき」だし、国連からもそうした仕組みが日本の学校にないことを数回指摘されているようです。最後に**氏原英明『甲子園という病』**。本来は「教育の一環」であるはずの高校野球。でも高校野球は、監督に服従するだけで考えない選手を生んだり、選手の体を壊したりする無理なシステムとなっている、と筆者は訴えます。高校野球や高校の部活のあり方に警鐘を鳴らす本です。

『開けられたパンドラの箱』

月刊『創』編集部編

2016 年、「ヒトラーの思想が降りてきた」と感じた青年が、周到な計画の下に「やまゆり園」の 19 人の障害者を社会に不要な存在として虐殺した事件。本書は植松被告の文章や詳細なインタビュー、また精神科医たちの分析などを通じて事件の核心に迫ります。植松被告自身による創作漫画が多数載せられているのも、興味深いですよ。

今号のひとこと

When I step onto the court, I feel like a different person. I’m not a Serena fan. ・・But then when I hugged her at the net, I felt like a little kid again.

「テニスコートに今足を踏み入れると、自分が別の人間になったように感じる。私は今はセリーナのファンじゃないのだ・・でも（試合が終わって）ネットの上で彼女と抱き合ったら、もう一度ちっちゃな子どもの頃の自分に戻っていた。　　**大坂なおみ(1997-)**

大坂なおみが全米オープンで女王・セリーナを破って優勝した時の言葉です。「過去」のことを語っているのに試合中のことは臨場感を出すために feel（感じる）と現在形にし、試合が終わってからは felt（感じた）と過去形に戻していますね。